

# らくだ図書館

常木らくだの小説投稿ブログ

常木らくだ

今日から6月 - 2015.06.01 Mon

---

【らくだ図書館(41)】

<http://p.booklog.jp/book/98521>

あまりにも毎月で、詳しく説明するのが面倒だから、黙ってリンクを置いてみる手法。

というわけで、今日から6月です。

5月の賞に参加された皆様はお疲れ様でした。

5月締切りの賞といえば、ウェブ応募する直前にPCがフリーズしたけど、どうにか間に合って締切り1分前に送信したという、色々と崖っぷちな投稿体験が寄せられました。

おい！

匿名だけどこのコメント主、前回はギリギリで、郵便局でルビ書いた奴だろ！

そういう情熱はきれいじゃないが、今回はもっと、日程に余裕をもって投稿するんだ！

ま、自分も基本はギリギリなので、他人に注意はできませんけど……(汗)

今までに実際にあった経験だと、締切り当日にポストへ行ったらちょうど集荷員が回収中で、とはいえ「これお願いします！」と原稿を手渡すのは気まずく、わざわざ別方向の郵便局まで走って行ったことがあります。

あの時はまるで、下足箱にラブレターを入れようと思ったら、本人が靴を履きかえている最中だったので、動揺して走って逃げてしまった……みたいな心境でした。

そうです。

ワナビは時として中学生のように純情なのです。

とにかく何にせよ、不測の事態があっても慌てなくて済むように、原稿は余裕をもって仕上げるのが一番だと思います(自戒)

こんにちは、らくだです。

締切りからまだ2か月ちょいですが、ビーンズの1次発表がありました。  
かなり厳しい通過率だったようですが、通った皆様はおめでとうございます。

【発表ページ】

<http://www.kadokawa.co.jp/beans/awards/>

応募総数 502作品  
1次通過 21作品  
通過率 約4%

もともと1次から絞ってくる印象はありましたが、4%というのは過去最難関のような気がします。

この状況で複数通過ってスゴイですね。  
自分は今回は不参加でしたが、その心意気を見習いたいです。

あと、それから。  
上のリンクに詳しく載っていますが、読者審査員を募集しているようです。

仕事内容はズバリ、「最終候補作品を読んで一番おもしろかった原稿を選ぶ」で、是非とも挑戦したい！

ただ当然と言っちゃ当然ですが、応募資格は「一般読者」に限定されているので、たぶん投稿者ではダメだろうと思われます。

なので自分はNGですが、純粋にビーンズ文庫が好きで審査したいという方は、詳細を確認されてみてはいかがでしょうか。

8月27日発売の3DS・ドラクエ8ですが、プロモーション映像が公開されました。

通過発表で紹介が後手に回りましたが、超美麗プロモーションなので、しつこくリンクを貼っておきます。

【公式サイト】

<http://www.dragonquest.jp/dq8/>

声優さんが全員ハマリすぎ！  
特にドルマゲスは感動で震えるレベル！

……と、これだけドラクエ8をプッシュしている自分ですが、PS2版の発売当時はむしろ批判的な目で見ていました。

なにしろ3Dが苦手だったので。  
ドラクエまでそうなったことが、正直言って残念だったし、プレイもしませんでした。

ただ世間の評判がすごくよかったので、廉価版が出た時ようやく買って、試しにプレイしてみたんですよ。

感想

「なんだ、この神ゲームは……!？」

最初はやっぱり3Dが苦手だったんですが、修道院炎上（割と序盤のイベント）で完全に心を掴まれて、そこから信者になったというわけです。

ま、なんというか、食わず嫌いは損ですね。

これはゲームに限らず小説にも言えますが、好きか嫌いかは実際に体験して判断すればいいわけで、最初から苦手だと決めつけるのは損な行為だと痛感した一件でした。

こんにちは、らくだです。

一時期はとんでもない暑さでしたが、梅雨入りしたせいか、少し過ごしやすくなりました。

さてさて。

今回は新設の賞の紹介です。

小説家になろうとマイナビ BOOKS のタイアップ企画で、「お仕事小説コン」という賞が開催される模様です。

【公式サイト】

<https://book.mynavi.jp/blog/ebooks/workcon/>

募集内容 作品の中に「お仕事」が出てくる小説  
文字数 自由（書籍化を想定して 70,000 字以上推奨）  
締切り 2015 年 8 月 27 日（木）  
結果発表 2015 年 11 月予定

要項を一通り確認しましたが、従来のなろうコンペと違う点は、「完結している作品（未完はダメ）」という部分です。

あと、「受賞した場合なろうから取り下げ必須」とか、細かい点でところどころ違う部分があるようです。

しかしながら、自分が一番気になったのは、「ラブストーリー、ミステリー、ノンフィクション、ライトノベルなど小説であれば何でもOK!!」という文章。

え、ノンフィクションって小説のジャンルなの……？（困惑）

それはさておき、なろうでお仕事小説を書かれている方は、チェックされてみてはいかがでしょうか。

ネットで本を注文したら表紙が折れていた時の絶望感。

というわけで、たいていの物はネット通販で済ませる自分ですが、本だけはリアル店舗で購入することに決めています。

書店への交通費？

目的の本を探し出す手間？

表紙が折れているよりは遥かにマシだ！

あとついでに、立ち読みのシワがないか、カバーの表裏に擦れ傷がないか、シュリンク（ビニール梱包）が強すぎないか、様々な観点から買う本を真剣にチェック。

そうです。

基本的に適当な自分ですが、本については神経質です。

でもこれだけ神経質になるのは、本を買うのが、それほど好きだという意味です。

その証拠に、目当ての本をレジへ持って行く瞬間って、すごくドキドキして幸せな気分になるんですよね。

いつどこで読もうかな、とか。

ページをめくった先にどんな出会いがあるのかな、とか。

そういう高揚感があるからこそ、仮に「傷のない完璧な状態で届く」と保証されていても、本だけはネットではなく本屋へ行って買いたいなーと。

あとはやっぱり、今はドキドキをもらう立場ですが、いつかは絶対に自分も本を出して、このドキドキを届ける側になりたいなと思います。



今起こったことを話すぜ！

やっと雑誌コバルトが買えたんだ！

そしたら通過発表に自分の名前が載ってたんだよ！



というわけで、ノベル大賞は2次通過でした。

近所の本屋に売ってないんですが（涙）、ようやくゲットすることができました。

それにしても、嬉しいですね。

2次選考を越えたのは3回目ですが、女性向けレーベルでは初めてです。

ありがとう、ありがとう……。

自分なんて門前払いだと思ったけど、女性向けを書いてもいいんだね……。

まあ2次から4次が同時に発表される賞なので、通過と同時に落選も確定するわけで、受賞の夢を見るドキドキ感はないんですけど。

でも今回の経験はとても励みになりました。

自分なんか場違いだと決めつけず、これからも、前向きに書いていこうと思います。

ちなみにビーンズで複数通過されている方が、こちらでは4次通過していて、デビューは時間の問題だろうなあと思いました。

正直现阶段の自分にとっては、4次通過なんて夢の世界ですが、受賞はさらにその先なんだから、いつかは高い壁を越えたいものです。

気になる受賞作品については、8月1日発売の、次号コバルトに載るようです。

自分は落ちてしまいましたが、賞に参加した者として、結果を見届けたいと思います。



雑誌コバルトを詳しく読んだのですが、コバルト短編の講評が為になりました。  
コバルト短編というのは、毎号（つまり常時）募集している、短編小説の新人賞です。

この賞で優秀作品として上位に入ると、複数の編集者さんによる議論の形式で、かなり詳しい講評が貰えるのです。

この講評がすごく具体的で、勉強になるんですよ。

その作品を投稿した書き手だけではなく、投稿者全体にフィードバックできるような内容だから、自分自身は送ってなくても参考になる部分がたくさんあります。

というわけで、今日は近所の図書館へ行って、過去1年分のコバルトを読み漁りました。

はっはっは！

バックナンバーまで網羅する自分は、なんという優等生なワナビだろう！

まあ本当に優秀な投稿者さんは、図書館でバックナンバーを探したりせず、欠かさず購入して読んでいると思います……（汗）

とにかく今日は、講評を読んで色々考えて、有意義な一日だったと思います。

あと、これは創作の勉強とはまったく関係ないですが、過去の通過者リストを見るのって面白いですよ？

すでにデビューされた方の名前があったり、思わぬ場所で知り合いの名を発見したり。  
ああ、〇〇さんはこの頃から頑張っていたんだなあ……なんて感慨深い気分になります。

自分もいつか受賞して、「ああ、こんな時代もあったなあ」なんて笑いながら通過リストを眺められるよう、精進したいと思います。

2巻が出版されました！ - 2015.06.08 Mon

---

こんにちは、らくだです！

以前紹介した須藤裕美様の作品ですが、このたび早くも2巻が登場しました。  
今回も1巻の発売時と同様、素敵な表紙と共に紹介します。

\*\*\*\*\*

『武神少女伝（2）身代わり皇女は女官に転職!?』

[マイナビ BOOKS ブログ紹介ページ](#)



\*\*\*\*\*

1巻は導入的な内容でしたが、2巻はいよいよ物語が本格的に動き出し、非常に読み応えのある内容になっています。

ちなみに「監修コメント」という形で、私の書いた短い紹介文が載っておりますので、よろしければリンク先のマイナビブログをチェックしてみてください。

自分の夢は小説を出版することですが、こうして他の作家様の作品作りに協力（と呼べるほど何もしていませんが……）できるのも、とても素敵なことだと思っています。

今後も機会があれば積極的に活動を続けていきたいです！

こんにちは、らくだです。

読者として小説を読んでいる時、「うわあああああああ！！！！！！」とか「ぎゃああああああああ！！！！！！」というセリフが頻出したら、皆様はどのように思われますか？

自分はこの手の演出は、正直ちょっと苦手です。

ピンポイントならいいですが、ページをめくるたびだと、正直続きを読もうか迷います。

あらかじめ弁明しておきますが、非難したいわけではありません。

商業作品でも見かけられる手法ですし、それも、小説の表現方法の一つだと思います。

ただ、その、何と言うんでしょうか……。

盛り上がっている場面だとちゃんと伝わっていれば、単純に「うわー！」とか「ぎゃー！」と書いただけでも、読者は大絶叫を想像してくれると思うんですよね。

逆に場면을盛り上げ切れていない場合、どれだけ語尾を伸ばして！マークをつけても、読者にとって臨場感のある叫びにはならないだろうし、字面がうるさくなるだけのようになります。

じゃあどうやって場면을盛り上げるのか？

そこで必要なのが文章力なり表現力であって、「！！！！！！」に頼らなくても緊迫感を正確に伝えられるのが、作家に求められる能力じゃないかなあーと。

ま、こんな話をしている自分も、全然できてないんですけどね（汗）

そういうわけで、自分自身が現状できていないからこそ、文章表現で緊迫感や臨場感を伝えられるよう、日々精進していきたくて思いました。

こんにちは、らくだです。

電撃小説大賞の応募数が発表されました。

せっかくデータを持っていますので、過去の数字と一緒に載せておきます。

第 16 回 (2009 年)	4,602 本	
第 17 回 (2010 年)	4,842 本	
第 18 回 (2011 年)	5,293 本	
第 19 回 (2012 年)	6,078 本	
第 20 回 (2013 年)	6,554 本	
第 21 回 (2014 年)	5,055 本	
第 22 回 (2015 年)	4,580 本	< NEW! >

【公式サイト】

<http://dengekitaisho.jp/>

というわけで、自分にとっては 7 回目の挑戦ですが、その中ではもっとも少ない応募数だったようです。

ただコレ、作家志望者の数自体は、減ってないと思うんですね。

自分自身の体感としては、志望者は減るところか、むしろ増えている気が。

じゃあなんで応募数が減ったかというのと、「ネット小説に活動の場を移す人が増えたから」というのが、一番の理由じゃないかと思います。

だって、なろうコンが 5,000 作以上ですもんね……。

7 年前は存在自体なかったのに、この勢いなら、そりゃ影響は受けるだろうと……。

そんなわけで今回の電撃の応募数は微減したようですが、だからといって通過の難易度が下がるわけではないので、気合いを入れて (?) 通過発表を待ちたいと思います。

前回の記事について少し補足を。

小説家になろうを始めとする、個人の小説掲載サイトは、今から7年前にもありました。なので「存在自体なかった」というのは、ここではなろうコンを指しています。(わかりづらい書き方してすみません・汗)

ただ7年前の状況ですと、小説掲載サイトはあくまで趣味の側面が強く、基本的には出版に結び付かない活動でした。

それが大きく変化したのが、ここ2～3年だと思います。

具体的には、

- ・ なろう等を発表の場とするコンテストの激増
- ・ コンテストに参加せずとも、人気作品であれば、スカウトがかかるケースも
- ・ そうして出版された作品が、レーベルの看板を背負うほどの、人気作品になっている

昔は「ネット小説を発表する(趣味)」と、「新人賞へ投稿する(プロを目指す)」は、かなり明確に線引きされていたのに、今は両方を同時に叶える存在が出てきたわけです。

それがなろうコンに代表される、ネット小説のコンペなのかなと。だからネット小説以外の公募は応募数が減少傾向にあるんじゃないかと。

……とまあ、そんなことを考えました。

これだけ長い間投稿生活を続けていると、作品の流行のみならず「投稿者を取り巻く環境」も変わっていくので、観察していると面白いような気がします。

自分はずっとここにいるつもりなので、投稿者の世界がどうなっていくのか、これからも見続けたいと思います。

こんにちは、らくだです。

最近読んだ本について、文庫本に折り込みのハガキを利用し、感想を送ってみました。



ところで皆さまは、こういうアンケートハガキって、利用されますか？

実際は書かない方が大半じゃないでしょうか。

自分も以前は「切手代負担のアンケートなんて誰が出すんだ」と思っていました。

それに最近は、ツイッターやフェイスブックで活動している作家さんが多いので、送ろうと思えばご本人に直接感想を送るなんてこともできちゃいます。

しかし！

続刊やシリーズ化の決定権を持っているのは出版社なので、応援したい作品がある場合、アンケートハガキを利用して感想を送るのが効果的であると。

そういう噂を聞いてからは、割と積極的に、書くようになりました。  
何でも無条件に出すわけではなく、本当に応援したい場合のみですが。

それにしても残念なのは、好きな雑誌等のアンケート欄が大きくて、感想を自由に書けるスペースが小さいことです……。

そりゃもうこっちはワナビですし(?)、好きな作品について語れと言われてたら、それだけで10,000字くらい書けるんですけどね。

というわけで、アンケートハガキには全然収まらなかったのが、普通に封筒と便箋を用意してファンレターを書こうかなあ……なんて考えました。

こんにちは、らくだです。

今回は電撃のウェブ応募の話題です。

まだ今年の発表も出ていませんが、来年に備えて、アカウントを作成してみました。

別に落ちる気満々だから作ったわけじゃないよ！

今から用意を始めちゃうくらい、備えがいいってことだからね！

というわけで、ログイン後の画面です。(2度クリックで拡大可能)



### 【確認できる情報】

作品番号、応募日時、応募回、筆名、作品タイトル、原稿データ、選考ステータス、評価シート

実際に試すわけにはいかないので、何も投稿していない状態の初期画面ですが、これはかなり便利そうですね。

郵送での投稿と違って、作品番号や応募日時が見られるのは、投稿者として安心です。

ウェブ応募の要項に記載されていた通り、評価シートもここで確認できるようです。

それから気になったのは、原稿データという項目。

もしここに原稿データがアップされるなら、「あそこ誤字ったかな？」と気になった時に、自分で確認できちゃうわけですね！

まあ訂正はできないと思うので、確認したところで、選考に影響はないんですけど。

とにかく色々な部分がすごく便利そうなので、投稿は郵送派の自分ですが、ウェブ応募も魅力的だなーと思いました。



こんにちは、らくだです。

相互リンクを貼らせていただいている焼き鳥さんが、電撃の応募数について、ここ数年の推移をグラフ化して載せてくださっています。(リンクはメニュー下方にあります)

単純な応募数は自分も載せましたが、グラフ化されると新しい発見がいくつもあり、非常に興味深く拝見しました。

特に面白いと感じたのは、長編と短編の比率です。

これはグラフ化して初めてわかるデータではないでしょうか。

それによると短編の数はあまり大きな変化がなく、主に長編作品の増減によって、全体の応募数が左右されているんですね。

あと、長編の比率は年々増加傾向で、ここ3回は横ばいの状態みたいですね。

こういうのはただ総数を見るだけでなく、分析しないとわからない情報ですね。

それにしても、こういう善意による情報発信は、投稿者として本当にありがたいなあーと感じます。

普通は面倒だから誰もしない。

でも掲載したら周囲の人々にとって役に立つ。

自分が目指しているのも、まさにそういうブログなので、すごくいいと思いました。

応募総数であれ他のデータであれ、客観的な数字が知りたいだけなら、まとめサイトで確認できる世の中ですもんね。

だからこそ独自の解釈なり考察なり、投稿ブログ(読み物)としての付加価値を提供できるよう、自分も頑張ろうと改めて思いました。

投稿原稿に書き込むページ番号って、皆様はどの位置に入れていますか？

要項で指定されている場合はそれに従うと思いますが、特にない場合は、右下・中央下・左下のいずれかだと思います。

ちなみに自分は左下です。

理由は原稿を読む際に、それが一番便利だから。

ページ番号が左下の隅にあると、右手の親指でめくって、頭出しできるんですよね。

他の位置も試してみましたが、中央下や右下だと、右手ではめくりにくい印象。

というわけで！

ページ番号は左下こそ大正義！

と長い間信じ続けてきたんですが、右下派の投稿者さんの意見を聞いた時は、それもそうだなと思いました。

例えばスマホ等の縦長で小さい画面だと、右から左へ原稿をスクロールするので、左下に番号があってもページを変えた瞬間は見えなかったりします。

そういう方にとっては、右下にあった方が、断然都合がいいわけで。

その意見を耳にした瞬間は、なんだかすごく、目からウロコな感覚でした。

つまり「左下こそ最高だ！」というのは、自分が紙原稿で読み直しをする人間（ついでに右利き）だから、そう感じているだけなんですね。

結局何が最適かは、人それぞれ違うものだから、自分の信条を一方向的に押し付けちゃいけないなあーと思いました。

レターパックは投稿者の強い味方ですが、ライト（青い方）には、厚さ 3cm 以内という制限があります。

この 3cm というのが、なかなかの曲者で。

紙原稿だけなら平気ですが、データメディアを同梱すると、封筒は結構ぶ厚くなります。

超えていないか確認しようにも、でこぼこだから自力で測定するのは難しく、いまいち不安が拭えません。

そんな時に役立つのがコチラ、だいぶ前に紹介した、ヤマトさんの厚さ測定定規。



今はメール便が廃止されてしまったので、入手困難かもしれませんが、一応参考ページを貼っておきます。

【厚さ測定定規】

<http://rakuda-library.seesaa.net/article/390036119.html>

写真が斜めですが、上の穴が 1cm で、下の穴が 2cm です。

残念ながらレタパの 3cm ではないですが、「これ結構ぶ厚いし、3cm 超えてね？」と思っても、意外と 2cm の穴を通してしまうケースがあります。

なので自分は、これを通った場合は普通にポストに入れて、通らなかった場合は郵便局の窓口で確認します。

それにしても、3cm 幅の測定器があったら、少々高くても買うんですけどね……。

郵便局の窓口では専用品(?)を使っているのでも、品物自体はありそうなんですけど、いつか商品化して欲しいと願う毎日です。

こんにちは、らくだです。

えんため大賞のお知らせが更新されたと聞いたので、「お、1次発表か？」と思って見に行きましたが、今回の募集開始（2016年4月締切り分）の告知でした。

【えんため大賞トップページ】

<http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/index.html>

ラノベ2部門とコミック2部門について、新しい募集要項が発表されています。  
一通り確認しましたが、規定枚数などは従来通りで、大きな変更はない様子です。

KADOKAWAのレーベル再編については気になるところですが、今のところは「それが理由で新人賞の募集停止」なんて例も見当たらないようなので、例年通りに執筆・投稿計画を立てるのがよさそうですね。

それから、ゲーム・コミカライズ・ボーカロイド楽曲等、前回の募集で新設された各部門については、とりあえず「coming soon」の状態になっています。

こちらはまだ実施回数が少ないので、前回の状況等を考慮した上で、要項が変更されるのかもしれませんが。

小説の募集ではありませんが、同じえんため大賞の看板で開催しているわけですし、今後の動向を見守りたいです。

それにしても、やはり投稿者の自分としては、通過発表が気になって仕方がない……！

過去の1次発表はだいたい6月下旬の金曜日なので、今週か来週だろうと期待しつつ、公式ホームページの更新を待ちたいと思います。

こんにちは、らくだです。

すっかり遅くなりましたが、ノベル大賞2次通過の祝福コメントをくださった皆様、ありがとうございました。

自分は言葉を扱う職業（につきたい人間）なので、言葉をプレゼントされるのは本当に嬉しいです。

あとそれから、現物の贈り物を頂くことも、最近ちょいちょいあつたりします。  
以前はゴディバを紹介しましたが、他にも色々あって、ありがた過ぎて泣けてきます。

そうそう。

プレゼントと言えば、先月コミックシティへ行った時、本の買い手が売り子（おそらく作者本人）にプレゼントを渡すシーンを見かけました。

それを見て、「なるほどなあー」と。

自分は無目的に行ったのでブラブラするだけでしたが、好きなサークルさんが参加していたら、作者本人と直接交流できる絶好のチャンスですよ。

しかしそれにしても、そこまで熱心な固定ファンがつくなんて、人気のある同人作家さんはスゴいなあーと実感しました。

趣味でやっている活動で、人の心をそれほど掴める・応援してもらえるって、偉大なことだと思います。

自分の活動は同人ではなくブログですが、それくらい愛される存在を目指して、日々努力していこうと思いました。

こんにちは、らくだです。

ちょっと前の話ですが、「常木さんって毎日ブログとか書いて、投稿に対して熱い情熱を持っているのに、どうして落選ばかりなんですか？」という質問を頂戴しました。

知るかー！

そんなもんこっちが聞きたいわー！

これはきっと、アレですね。

質問に見せかけて罵倒する、高度なSMプレイですね。

まあ冗談はさておき、上の質問に自分なりにマジレスすると、「その情熱を無にするほど作品本体が致命的につまらないから」だと思います。

うん……。

真実って残酷なものだね……。

でも自分に才能がないってことは、初めから大前提としてわかっていたので、今さら嘆くつもりは全然ないです。

才能があろうがなかろうが、とにかくやりたいと思ったから、投稿を始めたわけですし。

だから今さら才能のなさを実感したって、それは、投稿をやめる理由には該当しません。

あと冒頭の質問を逆に捉えると、「常木さんって落選してばかりなのに、それでも毎日ブログを書き続けるくらい、投稿への熱い情熱を持っている」っていうことですよ。

そうだ……。

そう言われたんだと思ったら、まだちょっとだけ救いはある……。

というわけで無理やり前向きに解釈しつつ、ハイレベルなSM(?) コメント、これからもたくさんお待ちしております。

調子に乗って質問コーナーを続けます。

これまたちょっと前の話ですが、「毎日ブログを書くことで文章を書く習慣は身につきますか？」という質問を頂戴しました。

うーん……。

これは正直どうでしょう……。

そもそも自分は小学生の時から日記が趣味で、この投稿ブログもいわばその延長なので、毎日書くのが当たり前の状況があります（更新できない日もありますが・汗）。

つまり文章を書く習慣は、ブログをしようとするまいが、最初からずっとあります。

別に自慢じゃありませんよ！

あくまで書く習慣があるだけで、投稿の成績は、皆様ご存知の通りですから！（白目）

ただブログを始める前と後で、明確に変わった部分の一つありまして、それは「人に見られる意識」ができたことです。

日記は基本的に自分しか読まないの、ハチャメチャな文章でも大丈夫ですが、ブログはそうじゃないんですよね。

主張したかった内容が正確に伝わらない……。

それどころか誤解されて、批判のコメントが来て、テンションが下がる……。

そういう出来事を何年も繰り返すうちに、「人に見られる意識」は相当上がったと思うし、それは小説にも活かされていると思います。

なので、「文章を書く習慣」はわかりませんが、「人に見られる意識」は確実に向上するので、皆も投稿ブログを始めちゃえばいいよ……という話でした。



もはや定例報告の様相を呈していますが、今日も梅田の小肥羊へ行ってきたので、いつも通り写真をアップしておきます。

冬は身体が芯からあったまるし、夏場は暑気払いにもなる火鍋！  
梅雨に食べても、なんとなく美味！（投げやり）

それではさっそく、行ってみましょう。



左は真っ赤ですけど、これでも小辛（レベル1）という、恐るべき設定。  
食べてみたことはありませんが、中辛や大辛にしたら、拷問レベルの辛さだと思います。

そして下の写真は、ランチコースの具。  
この他にも通し一品、シメの麺、デザートがつきます。



今回はラム大皿のおかわり（1回）に留めたので、ちょうどいい腹具合で完食することができました。

後で麺とデザートがあるので、肉だけで満腹にしないのが、コースを楽しむコツですね。

ちなみに、外の風景はこんな感じ。

前も似た写真を載せましたが、HEPの観覧車が目の前で、非常に素晴らしい眺望です。



デザートのマangoプリン。

別に店の回し者でもステマでもありませんが、このマangoプリンについては、本気で驚愕するレベルに美味しいです。



ところで、火鍋の記事があまりにもワンパターンなせいか、「毎回毎回『これで元気が出たので、執筆の方も頑張ります！』って書いてるよね？」と指摘されました。

いや……。

そこは察してくれ……。

「火鍋を食べて元気は出たけど、それと創作は別に関係ないので、まあ適当に投稿します！」だったらおかしいじゃんかよ（汗）

というわけで、いつも同じまとめ方ですみませんが、火鍋の元気を創作エネルギーに変えて頑張ろうと思います。

レターパックは投稿者の強い味方ですが、その簡易版とも呼べる、スマートレターの存在をご存知でしょうか？

【スマートレター】

<http://www.post.japanpost.jp/service/smartletter/index.html>

料金もサイズも（180円・A5サイズ）、レターパックライトを、半分にしたような存在です。

投稿における使用方法としては、「メディアのみを郵送、紙の原稿は必要なし」という賞に送る時に、便利かもしれませんね。

ただしこのスマートレター、使い勝手の面で、少なからず難点があります。

具体的には、

- ・ 追跡できない
- ・ 100g以内なら定形外郵便の方が安い
- ・ 販売郵便局が東京、埼玉、千葉、神奈川、静岡に限られる  
(今年6月15日から愛知と大阪でも販売開始、順次拡大予定らしい)

追跡がないと不安な方が多いと思いますが、気にしない方にはいいんじゃないかと。

CD-Rだけの郵送にレタパを使うと、封筒が大きすぎますからね。

それにしても、定期的に郵便の話を書いているせいか、「もしかして郵便局員？」と質問されましたが、いやいや関係ありませんので……（汗）

郵送のあれこれ（どんな手段があってどれが安い）は、今はもうやめましたが、ヤフオクで出品やってた時に身についた知識です。

というわけで、特にオチはありませんが、スマートレターを紹介する記事でした。

こんにちは、らくだです。

今回はフィギュアスケートの話題です。

今頃紹介しても乗り遅れっぽいですが、新シーズンの情報が発表されつつありますので、備忘録も兼ねてまとめておきます。

投稿ブログなのでマニアックな言及は控えますが、「スケート好きだけど自分で調べるほどじゃないなー」という方に、概要的な情報をお届けできれば……と思います。

#### [【平成 27 年度・強化選手】](#)

強化選手については、前にもリンクを載せましたが、修正が入っています。

現役続行の浅田選手の名前があるのは、ファンにとっては嬉しいところですね。

#### [【平成 27 年度・グランプリシリーズ出場選手】](#)

元の表は ISU のサイトに載っていますが、日本スケート連盟（上記リンク先）では、日本選手をマーカーで色塗りした物が確認できます。

ちなみに今年の NHK 杯は長野で、全日本は札幌開催なんですよ。

12-13 シーズンは札幌まで行って全日本を堪能しましたが、雪が凄くて観光どころではなく、スケート観戦以外何もできなかった思い出があります……。

あ、でも一応、時計台は見ました。

#### [【3 年前の該当記事はコチラ】](#)

というわけで、今年は西日本開催の試合が少ないですが（涙）、どうにか 1 つくらいは現地観戦したいなーと思います。

こんにちは、らくだです。

小説投稿者にとって電撃大賞はお馴染だと思えますが、コミック部門の応募要項を見たことはありますか？

【電撃コミック大賞】

[http://dengekitaisho.jp/comic\\_apply.html](http://dengekitaisho.jp/comic_apply.html)

電撃コミック大賞には、コミカライズ部門が存在します。

課題となっている作品を一覧から選び、それをコミカライズして投稿するのです。

キノやら禁書やら魔法科高校やら、看板作品は、だいたい候補に挙がっています。

これを見る度いつも思うんですが、是非とも、逆バージョンを開催して欲しい！

つまり課題コミックが指定されて、それをノベライズして投稿する、そんな部門があって欲しいなあ……と。

自分は一応小説投稿者ではありますが、自分自身で設定や世界観やストーリーを考えるのは、ぶっちゃけものすごく苦手で下手です。

じゃあどうして投稿してるかって、ただひたすらに、文章を書くのが好きだからです。

なので、ストーリー自体はすでに決まっていて、それを文章化する腕を見せる……という部門があったら、すごくやり甲斐を感じるのになあーなんて思ってみたり。

まあ、現状そういう募集がないってことは、コミックより需要が少ないんでしょうね（涙）

というわけで、苦手だとか下手だとか言ってないで、魅力的な世界やストーリーを書けるよう、日々精進しようと改めて思いました。

## えんため大賞 1次発表 - 2015.06.25 Thu

---

こんにちは、らくだです。

えんため大賞の1次発表があったので、ひっそりとリンクを貼っておきます。

【発表ページ】

[http://www.enterbrain.co.jp/fb/pc/15enter/17th\\_senkou01.html](http://www.enterbrain.co.jp/fb/pc/15enter/17th_senkou01.html)

応募総数 652 作品

1次通過 199 作品

通過率 約 31 %

通過率は例年通り、約3割だった模様です。

1次通過された皆様はおめでとうございます。

え？

常木らくだの名前がない？

はっはっは！

今回は投稿してないんだぜ！

いや、マジですからね？

見栄を張って隠しているわけじゃなく、落ちたら率先してネタにしますから。

しかし、えんためは4年連続で送ってきたので、今回自分は不参加だとわかっているけど、リストを見ると思わずドキドキしてしまいます。

これはもう習慣というか、条件反射ですかね……（汗）

ちなみに今年は不参加でしたが、えんため大賞自体は応援しているし好きなので、来年はいつも通り参加したいなと思っております。

## えんためガールズ 1次発表- 2015.06.26 Fri

---

こんにちは、らくだです。

えんため大賞の1次結果ですが、ガールズ部門も発表されました。

【発表ページ】

[http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/select/17th\\_bslogbunko\\_1st.html](http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/select/17th_bslogbunko_1st.html)

応募総数 439 作品  
1次通過 48 作品  
通過率 約 11 %

自分は残念ながら1次落ちでした（涙）

落選だったのは悲しいですが、この経験を糧にして、前へ進みたいと思います。

しかし、アレです。

少年向け・少女向け問わず、えんための何が好きって、ゲームに強いところですよ。

出身作家さんがゲームのノベライズを手掛けたり、ゲーム雑誌でお仕事をされていたりして、その事実がもう心底うらやましいっ……！

実際ゲーム実況やらゲームエッセイやら、ゲーム関連の募集があるのは、えんため大賞だけという現状ですし。

なので今回の落選に懲りず、今後も情報を追いたいです。

あとゲーム部門の新しい要項、今は出ていませんが、真面目に更新を期待してます。

というわけで、話が大きく逸れましたが、1次通過された皆様はおめでとうございます！

2次発表は来月下旬。

名前を知っている方々も通過しているし、自分も楽しみに待ちたいと思います。



あのね、ボク知ってるよ！

ブログに落選報告の記事を書いたら、その日の閲覧数が爆伸びするんだ！

というわけで、昨日は久しぶりに 300 超えでした。

これ、何なんですか？

落選者の顔が見たいなんて、みんな揃ってドSですか？

だがな、正直こういう現象はキライじゃないぜ……！

そんなわけで、今後も落選する度に赤裸々に報告するので、みなさん「らくだ図書館」を見に来てくださいね。

さて、今回もえんための話です。

ラノベの2部門を先に話題にしましたが、ゲームエッセイ部門も発表がありました。

【発表ページ】

<http://www.enterbrain.co.jp/entertainment/awards/17essay.html>

応募総数・66 作品、最終候補・4 作品、受賞作・1 作品です。

受賞作の4 コマが面白そうなので、普通に読んでみたいと思いました。

あと気になったのは、総評のこの文章↓↓↓

「エッセイのような自己を表現する作品は、文章力といったテクニックはもちろん大事なのだが、それ以上に題材への「愛」が問われる」

そうか、やはり愛が大事か……！

というわけで、自分も投稿ブログを書いている者として、読者の皆様に「投稿愛」が伝わればいいなーなんて思いました。

第3回オーバーラップ WEB 小説大賞の募集が始まりました。  
例によって応募要項ページのリンクをこっそり貼っておきます。

【公式サイト】

<http://over-lap.co.jp/narou/narou-award3/>

応募締切り 9月30日(水)

規定文字数 10万字以上で完結・未完は不問

参加方法 なろうで作品を公開し「3回 OVL 大賞応募作」のキーワードを設置

\*\*\*\*\*

すでに定期開催となったなろうコン同様、こちらも第3回ということで、定期開催が定着化したみたいですね。

しかし、アレです。

数年前に比べたら新人賞は確実に増えているはずなのに、デビューしやすくなるどころか、受賞の難易度はむしろ上がっているような気がします。

いやもうマジで、自分が投稿を始めた7年前に比べたら、どの賞も通過するのが確実に難しくなったと思うんですが……(涙)

これについては、選評の導入等で投稿者のレベルが上がったのかな、と思っています。  
昔は選評をもらえる賞って珍しかったけど、今やあるのが当たり前の状況ですからね。

で、本当はそれに追いつく勢いで成長しなきゃいけないのに、自分自身がそのまま(むしろ退化)だから、結果的に厳しくなったように感じるのかなーと。

まあいくら状況を考察したところで、投稿者にできるのは「書いて送ること」だけなので、悲観せずに書き続けたいと思います。

活動を始めたばかりの希望に満ちた投稿者さんが、落選して落ち込んでいるのを見ると、こちらまで思わず胸が痛くなってしまう今日この頃。

いや。

胸が痛いとか言いながら、自分も現在進行形で、落選しまくってますが。

ただ初期の落ち込みには特有の物があったから、相手が今それを経験しているんだと思うと、いたたまれない気分になるわけです。

わかるよ、苦しい気持ち。

だって自分もその道を通ってきたから。

それでまあ、ベテランワナビ（白目）として解決策を助言すると、それはもう「自分の気持ちと真剣に向き合う」しかないんじゃないかと。

投稿の何が楽しいのか、どういう状況がツライのか、譲れない部分は何なのか、逆に我慢できる部分はどこなのか、我慢の限界を越えたらどうなるのか……。

そういうことを自分自身で徹底的に洗い出して、ツライ気持ちの方が多ければ、投稿なんてやめちゃっていいと思います。

他の投稿者はどうでもいいとか、ライバル減らしとか、そういう理由じゃないですよ。

ただ、現実の厳しさを知っているんで、安易に「次は通るよ！」と言えないだけです。今更ですが、しょせん小説投稿なんて、一部の人間しか成功できない世界ですからね。

それを我が身で実感しても、結局やめられなかったから、自分はここにいるわけです。

というわけで、なんだか上から目線になりましたが、新人投稿者さんを自分なりに励まそうとする記事でした。

今更かよと突っ込まれそうですが、ビーンズの2次発表がありましたので、そっとリンクを貼ってみます。

情報遅くてすみません……（汗）

【発表ページ】

<http://www.kadokawa.co.jp/beans/awards/>

応募総数 502作品

2次通過 7作品

通過率 約1%

1%という数字には突っ込まないぜ！

通過率にビクビクしたって意味ねーかな！

（でも気になるから計算はする）

とにかく通過された皆様はおめでとうございます。

個人的にはコンビニ新撰組がどういう内容なのか気になります。

それにしても、タイトルで興味を持たせるって、投稿において非常に重要だと思います。

小説本文を読んでもらう前に、「どういう内容だろう？」とか、「へえ一面白そうだな」とか思わせたら、スタート前の段階で一步リードできますもんね。

まあだからと言って、あまりにも狙いすぎたタイトルを付けると、「期待して読んだが肝心の内容が肩透かしだった」と選評で言われるわけですが……（実話）

何はともあれ、3次発表は来月中旬。

今度こそすぐ記事にできるよう、更新を見守りたいと思います。